

病理診断科（選択）

研修科	病理診断科（選択）
責任者	教授 佐藤隆夫
指導医数	7 名
研修期間	4 週間 ～ 8 週間
受入可能人数	2 名
到達目標	<p>臨床研修の一環としてプライマリ・ケアの範囲内での病理学的知識の習得および病理学的技能の体験とともに、よき臨床医として一生涯活躍するための基礎となるべき病理学的思考方法を身につけることを目的とする。 一般目標は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各科に共通した生検検体の取り扱いを修得する。</li> <li>2) 病理検査の流れを把握し、病理診断を体験する。</li> <li>3) 病理解剖の基本的な手技を身につける。</li> </ol>
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 卒前教育で習得した各種疾患の病理ならびにそれに関連する臨床的事項について基本的知識を高めることができる。</li> <li>2) 病理診断・病理解剖に必要な基本的な技能を習得し、病態を正確に認識し、かつこれを表現することができる。稀ではない疾患については的確な診断を下すことができる。</li> <li>3) 症例検討会、CPCに積極的に参加し、自己学習の習慣を身につけることができる。</li> <li>4) 他の医療スタッフとの協調性を身につけるとともに、安全管理や精度管理をよく理解することができる。</li> <li>5) 剖検症例に関して呈示と討論ができる。</li> </ol>

<p>方略 (LS)</p>	<p>1) 指導医と一緒に生検の病理診断を行う。</p> <p>2) 手術材料の切り出しと、病理診断を行う。</p> <p>3) 剖検症例を用いて、切り出し・ブロック作製・薄切ならびに染色まで自ら行う。</p> <p>4) 病理解剖に参加するとともに、CPCで症例の提示と討論を行う。</p>
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与</p> <p>A-2. 利他的な態度</p> <p>A-3. 人間性の尊重</p> <p>A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性</p> <p>B-2. 医学知識と問題対応能力</p> <p>B-3. 診療技能と患者ケア</p> <p>B-4. コミュニケーション能力</p> <p>B-5. チーム医療の実践</p> <p>B-6. 医療の質と安全の管理</p> <p>B-7. 社会における医療の実践</p> <p>B-8. 科学的探究</p> <p>B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療</p> <p>C-2. 病棟診療</p> <p>C-3. 初期救急対応</p> <p>C-4. 地域医療</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>外科系を希望するもの、内科系を希望するもの、いずれにおいても臨床医にとっては病理診断は必須であり、それらの実際を若き研修医の時期に経験することは、一生涯を通じてよき臨床医として過ごすにあたって大いに役立つであろう。その意味において、選択科として病理部が本プログラムに参加している意義は大きく、より多くの研修医諸君が病理を選択し、病理学的思考を身につけることを希望する。病理部は研修医諸君の積極的参加を大いに期待するとともに、病理部一同一丸となって諸君に対応していく予定である。</p>